

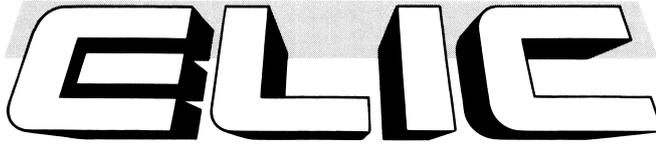
電機労働者懇談会

Electric Labor and Industry Correspondence

2024年9月10日

No 441

発行者：ELIC編集委員会谷口利男
142-0043 東京都品川区二葉2-20-8
電話(03)6421-5323 染野ビル2F
郵便振替00130-3-358078ELIC編集委員会



1部100円

電機各社、第一四半期の業績

①営業利益大幅増（日立）

日立Astemo再編の影響で、全体の売上高は減少しましたが、基本セクター部門が好調で、営業利益は前期比50%増となりました。欧州鉄道のタレス社の買収や、家庭用エアコンの製造を独のボッシュ社に売却などが発表されています。

②増収増益（東芝）

半導体関連を除く事業が好調に推移していることから、前期比で増収（6.4%）増益（25%）となりました。キオクシアの業績回復によって、純利益も大幅増（673億円）となりました。

③前期比で大幅利益増（NEC）

日本航空電子の非連結化もありました（注：ルネサスは、第二四半期になります）。ITサービスと社会インフラ部門で増収増益となっています。下期偏重の為、前期の1Qでは赤字でしたが、今期は営業利益を確保しています。

④大幅に増収増益（富士通）

前期の1Qでは赤字でしたが、今期は214億円と大幅な営業利益となっています。主力のサービスソリューションが好調で、売上高も3.8%増となりました。

⑤売上高が過去最高に（三菱）

円安の影響やインフラ増もあり、売上高が過去最高を更新しました。営業利益は、FAシステムの規模減や調達コストの影響もあり、前年並みの水準となりました。

⑥売上高増だが営業利益減（パナソニック）

売上高増には為替の影響（1297億円増）が大きいです。オートモティブ・インダストリー部門で増益となりましたが、くらし事業・コネクテッド・エナジーでの減益もあり、全体としては減益となりました。

⑦営業赤字幅減少（シャープ）

ディスプレイ部門の営業赤字（△171億円）

（第一四半期の各社業績）

単位億円

企業名	売上高		営業利益		
	今期	前期比	今期	前期比	利益率
日立	22,114	△4.8%	1,976	51%	8.9%
東芝	7,491	6.4%	143	25%	1.9%
NEC	6,903	△2.3%	45	-%	0.7%
富士通	8,300	3.8%	214	-%	2.6%
三菱	12,865	5.4%	587	△4%	4.6%
パナソニック	21,217	4.5%	838	△7%	3.9%
シャープ	5,320	△1.7%	△58	-%	-%
富士電機	2,364	1.0%	173	18%	7.3%
沖電気	979	20.1%	39	-%	4.0%
ルネサスエ	7,106	△2.4%	1,476	△33%	20.8%
安川	1,324	△7.1%	111	△32%	8.4%

を他部門でカバーし、営業赤字は減少しています。通期では、営業利益100億円、最収益50億円と予想しています。

⑧大幅な増収増益（沖電気）

前期比で+161億円の売上高と+39億円の営業利益となっています。新札更新に伴うATM関連のエンタープライズソリューションの高業績に支えられています。

⑨営業利益33%ダウン（ルネサス）

営業利益は前期比ダウンとなりましたが、営業利益率は20.8%と高い水準です。自動車向け事業は増収増益ですが、社会・インフラ・IoT向け事業が減収減益となっています。

今月号の紙面

- ①電機各社の第一四半期業績を分析
- ②電機懇第37回総会議案の情勢
- ③電機懇第37回総会議案の方針
- ④「広き流れに」出版を祝う会
- ⑤東芝4000人のリストラをやめよ
- ⑥ラプラス「小説」國府方さん
- ⑦電機情報ユニオン、青年コーナー
- ⑧電機懇「第37回総会」の案内「からむす」普及。集積回路